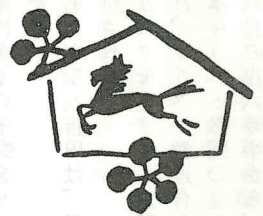


# 仙台司教区 教区事務所だより



(第 28 号)  
昭和55年2月1日

## ※ 日本司教団声明

### 〃 難 民 救 援 〃

インドシナ難民の差し迫った状況を考え、日本司教団は、一九八〇年度四旬節愛の運動の募金を、東南アジア難民、特にカンボジア、ラオスの難民救援のために行うことを決定。日本全国の信者の皆さんによびかけます。

\* \* \* \* \*

毎年四旬節には、愛の運動の募金を行っていますが、主のご受難に合わせて私達も犠牲を払い、兄弟である人々の苦しみを、幾分でもやわらげることが出来るように、と考えられたものです。毎年大きな成果をあげていますが、今度は、いま最も緊急を要する所に焦点をあてて、全国の皆さんの力を結集いたしましょう。

すでに新聞、ラジオ、テレビでご存知のように、日本に近いアジアの一角で多くの難民が飢えと病気の絶望的な状態に置かれ、教

### 〃 四旬節愛の運動のために〃

を求める声は日ごとに大きくなっています。もし、すぐにも大量の援助がなければ、二百五十万人以上の人が飢え死にするだろうといわれます。世界の各地から救援の手が差し

のべられていますが、まだまだ食糧、医薬品、そして働き手が不足しています。今こそ私達は、「最も小さい者の一人にしなかつたことは私にしなかつたことだ。」(マタイ25・45)という言葉を思いおこすべき時です。主イエズスはこの言葉で、兄弟である人々と主イエズスご自身とのつながりを示して、何もしなかつた人を罰しました。積極的に悪い事をしなくても、良いことをしなかつた人がとがめられていることに注意しましょう。

特に子ども達に呼びかけたいと思います。皆さんと同じ年の沢山の子ども達も、学校に行けないでいるだけでなく、食べ物がなく

栄養失調になったり、恐ろしい病気にかかっています。それを治すお金がありません。難民の子どもの達の苦しみ、悲しみを少しでも少なくしてあげるために、どうぞ皆さんが食べるオヤツを少しがまんして下さい。買いたいのを、ちょっとがまんして下さい。そのお金を献金して、カンボジア、ラオスのお友達を助けて下さい。

今、ここで話したことは、そのまま大人にも当てはまります。一箱のタバコ、一杯のコーヒー、又は一回の食事を抜くことによって、難民の兄弟の飢えの苦しみを味わい、献金して下さい。私たちは、ただ「主よ、主よ」というのではなく、おん父の、み心を行うもの(マタイ7・21)となるよう努めましょう。

(この声明文は、昨年の暮れ、日本司教団が発表されたものの抜粋です。)

\* \* \* \* \*

仙台司教区においても、今年の四旬節愛の献金は、右の趣旨に従って行われる。カンボジア難民救援のために貧者の一燈を献げよう。

## 司教様の日程

(一月十日現在)



- 2月3日 男女修道会上長者合同役員会
- 10日 大湊教会堅信
- 12~14日 宮城県宗法連協代表者研修会
- 18~19日 仙台司教区地区長会議
- 25日 教区司祭団月例会

### 浜尾司教

横浜教区長に\*\*\*



去る11月12日付をもって、横浜教区長である荒井勝三郎司教は教区長定年の75歳を迎えたため、横浜教区長を辞任。後任の新教区長に浜尾文郎東京補佐司教が任命された。

着座式は1月15日成人の日に、横浜教区民はもとより、全教区からの多数の参列者の祝福を受け、荘厳に行われ、横浜教区の一九八〇年代のスタートが切られた。

### 聖ライムンドの祝日と

新年会祝うー元寺小路教会ー

1月7日は佐藤司教の修道名聖ライムンドの祝日であり、元寺小路教会では、前日の公現の祝日に新年会もあわせて祝われた。共同ミサの後の祝賀会の席上で、司教は、今年度の仙台教区の目標として軽費老人ホームの建設と、スベルマン病院に新たに産婦人科を増設することを発表された。

### 叙勲祝賀会 佐藤直助氏

去る11月、内閣より勲三等旭日章を授与された佐藤直助氏の御功労を祝し、1月17日の夜、元寺小路教会で祝賀ミサ、続いて天かつ中央店で祝賀会が関係者の参加のもとに行われた。この会は、仙塩8教会が中心になって準備されたものである。

### 恒例の〃殉教祭〃

今年は、2月24日(日)



例年行われている仙台広瀬川殉教祭が、今年は2月24日(日)、昨年同様元寺小路教会を起点として出発、殉教碑前で式典が行われる。キリストの証人となった殉教者達をしのび、私達の信仰が強められるよう、共に祈りたい。午後1時15分 元寺小路教会出発

2時 広瀬川殉教碑前で祭典  
説教 斎藤石雄師(豊屋町)

### ☆☆☆

### 市民クリスマス三題

盛岡 十二月十五日、岩手県公会堂ホールにおいて盛岡市内キリスト教連合会主催、岩手日報社後援による市民クリスマスが催された。聖書朗読、さんびか斎唱のあと、四ツ家教会ヨゼフ神父の感謝の祈り、前盛岡市長・工藤巖氏の講師紹介。「現代教育の課題」と題して、北海道家庭学校長・谷昌恒氏の講演が行われた。現場教育実践の立場から教育を通してみた谷氏の講演は、風雨の中を集った二五〇名余りの会衆に多くの示唆を与え、感銘のうちに終了した。

尚、当日の献金七万九千八百円は、盛岡市社会福祉基金に寄付された。

(岩手カトリックセンター・斎藤)

水沢 水沢市では、キリスト教連合会(カトリック教会と日本キリスト教団の連合)が主催して、十二月八日の夜六時半から、水沢

市公民館ホールで第二回市民クリスマスが行われた。

この夜のアトラクションは、黒沢智子バレエ研究所によるバレエ「花のワルツ」(チャイコフスキー)、小川博子さん(国立ケルン音楽大留学)のピアノ独奏、そしてローネル神父(水沢教会主任)の指揮による市内の三つの合唱団合同90名による大合唱「クリスマス賛歌」と盛り沢山で、約四五〇名の参加者を魅了した。そして最後に、全員によるキャンドルサーピスで平和の君イエス・キリストの誕生を心から祝い、世界平和のための祈りを共に献げた。なお当日の献金は、歳末助け合い運動にすべて送られた。

青森 去る十二月十六日、青森市民会館において青森市キリスト教協議会の主催で第八回市民クリスマスが行われた。参加者約六〇〇名。これは青森市内のカトリック教会(3)、日本キリスト教団(2)、聖公会、バプテスト教会、バプテスト連盟、福音教会の9つの教会が8年前から行っている行事である。

プログラムの第一部は、聖書、キャンドルサーピス、説教、祈り等で、これを明の星短大のコーラスが一層盛り上げていた。

第二部の音楽会では、青森市民管弦楽団と混声合唱団が「聖セリア荘厳ミサ曲」を演奏した。毎年何かの宗教音楽を演奏するのであるが、地元青森のオーケストラと合唱団の躍進に市民は大きな拍手をもってやまない。

最後の「聖しこの夜」の大コーラスは、今も耳に残っている。(本町教会 新松)

カンボジア難民救援募金

十二月二十四日の午後五時半頃、「今晩は告解が混むだろうから、少し早目に」と、わたしは食卓についた。ちょうどそのとき、あたかも、はしをとるのをとがめるかのよう

に玄関のベルが激しく鳴った。「来たぞ、第一号」とわたしは玄関に走った。玄関に現われたのは、「告解」を願いに来た信者ではなく、外人だった。髪もひげも紅く、長い。若々しく、とても、やさしい。どこかで会ったことのあるような顔だ。

「今晚八時からミサです。いっしょに御ミサを捧げましょう」わたしは早口で言った。やさしい外人に会うと、テッキリ司祭と思いつみ、言葉が先に出てしまう。

「わたくし、クリスチャンではありません。こちらの教会では、カンボジア難民のために募金していらっしゃいますか。わたくし、ほんとに少しばかりで恥ずかしいのですけれども、難民のため送って頂きたいと思ひま

す。実は、今日、まちで、その募金に会いませんでしたので。」  
瞬間、わたしは言葉につまってしまった。相手の立派な日本語に押されたためではない。司祭と間違えた自分の早とちりを悔いたためでもない。それは、「勿論、募金しています」と。即答できなかつたためである。  
去る十一月、来年度の教区活動方針について審議された司祭評議会で、たしかに「カンボジア難民救援募金運動の促進」という意見

がB神父から述べられた。しかし決議とまでは行かなかつた。誰しもが、教区として何かをせねば、と思つたに違いないが。その後新聞、テレビでカンボジア難民の惨状が次々と報道されるに従い、わたしの教会の信者からも、「献金を呼びかけて欲しい」との声ができるようになった。わたし自身、三十五年前の終戦当時、身をもつて体験した、あの全日本を覆つた飢餓を思い起こす度毎に、「カンボジア難民に対して何かをせねば」と自責の念に駆られる日々であつた。それなのに、わたしは、これまで何の手も打つていなかったの



だ。だから、わたしは、この外人に弱々しく答えた。

「幼稚園としては、子供達や父兄から、もう既に集めました。更に弱々しく続けた。」「教会としては、まだ始めておりません」  
告白にも似た重い気持ちでこう答えたわたしは、あの告白場におけるときと同じように急に心が軽くなり、そのまま、あまかける爽快さを感じ、決然として言明した。  
「今晚、カンボジア難民のために献金を集めます。ミサの間、信者達に、今晚あなたが

いらしたことをも伝えます。信者達は、あなたと同じように喜んで献金するでしょう」  
わたしは彼にメモ用紙を渡し、記入を頼んだ。彼は文字と数字を鮮明に書き並べた。

12月24日 Hodge, Stephen,  
〒5000 石巻坂10-1-211号

わたしは、彼をそのまま帰らせることは惜しかったので、是非とも、書齋に案内した。温かい、あのおみおつけも気になつたが：

彼は英国人、但し母はイタリー系とか(だからカトリックとは無縁でない、と言いたかつたのであろう)、キリスト教から仏教に改宗し、現在東北大で「日本」を勉強中(つまり仏教を、と彼は言い添えた)。

彼の訪問が第二バチカン以前であつたならば、わたしは悲しんだかもしれない。千年間も続いた父祖の信仰から離れ、この日本の国に道を捜し求める彼を見て、だが、この世には、信者と匿名のキリスト信者しかいない、と確信する今は違う。彼はまさしく、わたしにとってベトレヘムの天使であつた。約束通り、説教台で福音朗読の後、この天使について語つた。その結果として、¥989,588の献金が集まり、前記の幼稚園関係の¥523,511を加えて計¥1,513,099を十二月二十五日、東京のカトリック中央協議会カリタス・ジャパン宛送金することができた。この領収証到着次第、これを手にして、わたしはHodge氏を訪問する予定である。



青森浪打カトリック教会の日曜学校の対象は、信者の小学生、となつていますが、未信者の友だちを伴つて来た場合は、喜んで一緒に勉強しています。時間はミサの奉獻の前の「みことばの祭儀」を含めての一時間で、内容は聖書の「みことば」です。クラス編成は低学年(一〜三年生)、高学年(四〜六年生)の二クラスに分けられています。

一時間の要理教授の過程は「初めの祈り」と共に一週間の恵みを思い出して神に感謝する時間を10分間程もち、その時高学年の生徒は自分の感謝を言葉に出して祈り、皆が共同祈願の形でそれに心を合わせ「アーメン」を言い感謝を分かち合います。次に座つて、短い神の「みことば」を聴き、沈黙の祈りの中に神の光りを受けます。心に感じた事があつたら「みことばノート」にそれを記します。それを「イエズス様への返事」と名付けていますが、次にその抜粋を挙げましたので、御覧下さる。

\* (サマリアの女のたとえ)

「私の与える水は、その人の中で永遠の命にわき出る水の泉となる。」ヨハネ4:14

イエズス様へ (小四・女兒)

イエズス様は私にも、いつもなくならないのちをくださいいます。なくならない水(いのち)はおめぐみです。いつもイエズス様はおめぐみを世界じゅうの人にもあたえていらっしゃると思います。おめぐみのひとつはごせいたいです。私はおめぐみをもらったばかりだけど、これから、もっとおめぐみをもらつて、ほかの人にもわけてあげたいです。

\* 盲人バルテマイを治す「マルコ10:46〜52

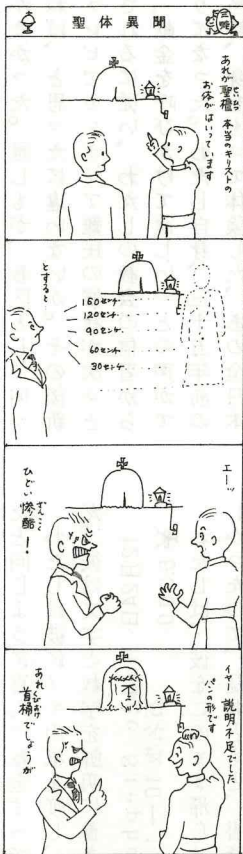
イエズスさまへ (小一・女兒)

イエズスさまはほんとうにかみさまなんです。こじきのバルテマイをたすけてあげたから、ほんとうだとおもいます。わたしもイエズスさまのこどもです。 ○○子より

\* イエズス弟子たちに現われる「ルカ24:36〜43

イエズスさまへ (小一・女兒)

わたしは、イエズスさまはなにをしているときもしんばいしてくださつて、ひかりでこ



ころのなかをみてくれるとおもいます。

「イエズスが「天地の主なる父よあなたをほめたたえます。これらの事を知恵のある者や賢い者に隠して、幼子にあらわして下さいました。」(ルカ10:21)とおっしゃつた事を、私たちは度々このみことばノートの中に発見します。V (担当|| Sr小池・Sr横山)

◎おしらせ

アジア体験旅行 ータイ訪問ー

東京カトリック学生センター(真生会館)では、アジア体験旅行の第四回としてタイ国訪問を企画している。タイの農村の貧困、売春、日本企業の公害輸出、難民問題等を自分の目で見、更に現地の人々との出会いを通して草の根外交の出発点とするのが目的である。

期間 3月17日〜12日間、参加費 14万円  
参加資格と人数 原則として学生15名前後  
申込締切 2月5日

申込・問合せ先 東京都新宿区信濃町33  
真生会館 オリビエ・シユガレ神父  
(〇三―三五―一七二二)

又は、仙台司教区事務所 Sr小川

上  
紙  
テレフォン  
サービス



献金の心 (下)

第二に、献金は、神様への信頼のしるしでもあります。これも信仰と深く結びついています。

イエズス様はマテオ6章の32・33節で次のように言っておられます。

「あなた方の天の父は、それが皆あなた方に必要であることを御存知です。だからまず神の国とその義とを求めなさい。そうすればそれらのものは皆あなた方に与えられるでしょう」と。

実は、この世のものは、すべてみな神様のものです。地球も、人も、資源も、名誉も、生命も……私達が持っているものは実は、神様からあずかっているものだからといってよいでしょう。献金は、神様のものを神様にかえずものだと行ってよいのです。

旧約時代10税というものが定められていました。すべてのものは神様のものですが、特に、長男と財産の10は神様のものとみなされていたのです。

ですから、イエズス様もお生まれになった時、ヨゼフ様は貧しかったので、山鳩二羽でイエズス様を神様から買ったのでした。

納められた10税は、神殿の建設修理、祭司の生活、行政の用に供されました。

今の時代も、神様がこの世にお働きになる時必要なものととのえるために、神様のものを神様にかえずする必要があります。それが教会維持費であり、献金です。今の世では10とは言いません。その分に応じて、と言っています。

第三に、献金は礼拝、交わり、償いのしるしです。

旧約聖書を読みますと、非常に早い時代からいけにえが献げられていました。

この儀には私達の感謝、礼拝、償い、交わりの意味が含まれています。

出エジプト記23章15節に、「誰でも空しい手で、私の前に出てはならない」「儀は当歳の傷のない牛(羊)でなければならぬ」とあります。

その当時、財産といえば、牛や羊や山羊でしたし、時代が下って、カナアンに定住するようになるると、農作物も加えられるようになりました。

そのような財産である牛や羊や穀物が、当時儀として献げられていたものが、今は、パンやブドウ酒、献金の奉献によって献げられているのです。

献金は、「天国への預金」とも言われています。キリストは、「天に宝を積みなさい」と言われましたが、教会の献金だけでなく、世のため、人のために自分の月収の何分の一かをいつもおささげすることは尊いことです。

赤い羽根の募金は、フランガン神父の提唱で、社会の助け合いの献金として始められたということですが、私達信者は、神の存在とめぐみを知っているなら、義理や体裁からでなく、お互いに助け合う喜びの心をもって献金を行うべきです。

こうした神への奉献は、たしかに神によりされるものです。

私達一人一人では人々に尽くせなくても、教会や公の福祉の成長を通して、喜びが世にひろがる助けとなるなら、私達の宝も又、天国に積まれることになるでしょう。

結局は信仰の心です。

と言っても、実際に維持費をどの位納めたら、ときく人がいるので、十数年前仙台司教区では、月収の3%と決めたことがありました。が、聖パウロは、

「各自、惜しむ心からでなく、また強いられてでもなく、自ら心で決めたとおりにすべきである。」(Ⅱコリント9・9)と言っています。が、恵みと喜びを知る者は惜しまぬように、恵みや喜びのない者は、不純な動機から献げぬように注意すべきでしょう。

(吉田 神父)

笑憩 一聖体ランブ



お母さんは四歳の坊やをつれて、ちょっと教会に立ち寄った。しばらく静かに祈っていると傍らにいた坊やは小さい声でささやいた。「お母ちゃん、前の赤ランブが青になったら帰ってもいいの？」(浪打教会報より転載)

